

令和4年度外部評価実施者からの意見への対応状況

資料1

事業名【担当課】

22 生涯学習推進事業【生涯学習課】

全体に対する意見・提案等	担当課回答
<p>事業目標の達成度が判断できる指標の準備をお願いします。</p>	<p>現在は、アンケートの満足度や育成サークルの成立率を指標としています。今後、「地域人材の育成、地域での学び合い、仲間づくり・居場所づくりのきっかけとして、市が公民館講座をとおして豊かな学習機会を提供し、市民が学習意欲を高めたり、生きがいを感じたりできるような状態にする」という事業意図の達成度を確認するため、過去に講座を受講した人へ「その後講座を受講したかどうか(リピート率)」「講座の受講が仲間づくり・居場所づくりにつながったかどうか」といった項目を含む追加調査を実施します。</p>
<p>近隣市の生涯学習窓口との情報交換を積極的に行ってほしい。瀬戸市は歴史があり生涯学習を幅広く運営している。尾張旭市は交流館ふらっと会場で指定管理者が運営している。</p>	<p>受講者アンケートでも、「瀬戸市や日進市ではこんな講座があった。ぜひ長久手市でも実施して欲しい。」という内容の意見を複数いただいています。特に、瀬戸市はおためし講座や講座紹介展など間口を広げる特徴的な取組実績があるので、積極的な情報交換を行います。</p>
課題に対する意見・提案等	担当課回答
<p>成果指標である全講座アンケートの平均満足度は毎年、高い水準で目標値を上回っている。任意団体との協働主催講座では、講座設定の段階からの参加者との内容や開催時間帯等の話し合いが大切である。また、こうした講座を開いている市の他の施設とすみわけつつ任意団</p>	<p>囲碁講座の開催を依頼している市内在住のプロ棋士である羽根泰正氏と、市内史跡めぐり講座の開催を依頼している郷土史研究会に対しては、講座の内容を決定する際に打合せを実施しています。 市内の任意団体などと連携した講座の開催については、アンテナを</p>

<p>体を増やすことも課題と思われる。その際、教育の機関であるという「公民館」の特色を生かし、多様な学びに焦点を置くことも必要である。「ながくて・学び・アイ講座」については育成サークルの立ち上げが成功してきているようだが、立ち上げ以降の支援のあり方についても考えたい。行政頼みの構図から市民の自発的学習へと発展させていくための支援が立ち上げ以降も必要であり、こうした支援を担うリーダーの発掘、リーダーの養成も課題である。</p>	<p>張って民間や他課で実施していない内容を取り上げ、バリエーションを増やしていきます。</p> <p>「ながくて・学び・アイ講座」の育成サークル立ち上げ以降の支援については、現在公民館の1年間の使用料免除、生涯学習情報誌へのメンバー募集記事掲載、サークル参加希望の問合せがあった場合の取り次ぎ等を行っています。さらに市民が継続して学習に取り組む環境づくりのために、今後先進市の調査・研究を行います。</p>
<p>市の基本構想に基づいて、地域での学び合いの機会を提供する事業である。主に退職世代を対象に、市が公民館講座を開講し、市民相互の自主学習サークルの立ち上げを支援する意義は大きい。市が市民主体での運営を期待するのは理解できるが、サークル立ち上げ時の負担は大きいので、運営方法についてのノウハウ集や先行事例集などを市が提供すれば、市にもサークル立ち上げ者にもメリットが大きいと思う。テーマと講師の選定が重要と考えるが、人材バンクを活用したマッチングは有効であり、市が積極的にPRすることも大切であろう。マッチングのコーディネータを置くこともよい方策かと思う。</p> <p>一方、指標に関しては、「学習機会を提供し、市民が学習意欲を高めたり、生きがいを感じる状態にする」という事業意図が、指標とした「講座アンケートの平均満足度」で測れるかという疑問が残る。満足度が高いことは、指標の一つであるが、出席率や多角的なアンケートの総合得点なども検討してはどうかと考える。</p>	<p>これまでもサークル立ち上げ時に、会則の定型書式の提供などの支援は行ってきましたが、今後過去に成立したサークルのノウハウや事例をまとめ、積極的に情報を提供していきます。</p> <p>マッチングのコーディネータの設置については、生涯学習講師人材バンクリストの活用を周知することで同様の効果を目指します。具体的には、様々な広報媒体へ記事を掲載をするなど、積極的なPRに努めます。</p> <p>指標については、出席率や過去に講座を受講した人への追加調査などから、事業意図の達成度を測ることができるよう指標を見直します。</p>
<p>教えたい人も学びたい人も互いのニーズがマッチングできる様に行政が上手にコーディネートしていく必要があるのではないかと。もしその事が難しいのであれば、その道のプロにお願いするのも良いかと。教えたい人、学びたい人共にPRをもう少しわかりやすくインパクトのある工夫をすると良いと思う。</p>	<p>「教えたい人と学びたい人のニーズをマッチング」という点では、生涯学習講師人材バンクリストの活用が考えられます。現状では、新規登録数や照会数からみると認知度が低いので、HPやSNSの運用を見直し、有効性をPRします。</p>

令和4年度外部評価実施者からの意見への対応状況

事業名【担当課】

39 放課後児童クラブ事業【子ども未来課】

全体に対する意見・提案等	担当課回答
<p>事業意図の再検討を行って、公平なサービスが提供できるように工夫をお願いします。</p>	<p>「新・放課後子ども総合プラン」に基づく、令和6年度からの一体型運営と事業の民間委託化を検討します。民間委託をしても、入所事務は、引き続き市が行い、その中で公平性を担保していきます。</p>
<p>成果指標である加入希望者の受け入れ割合は毎年、わずかではあるが目標に達していない。すべての希望者が加入できることが必要ではあるが、9カ所の「放課後児童クラブ」だけでの対応は困難である。また、保護者のニーズも多様である。毎日19時までの保育を希望する場合もあれば、週何日かの希望の場合もある。細かなニーズ調査が必要であり、その上で既存の放課後児童クラブ・学童保育での受け入れ、放課後児童健全育成事業の検討による放課後子ども教室での受け入れ等が考えられる。その際、学童保育への支援や放課後子ども教室での「保育」のあり方を検討し、保護者の負担の格差や保育内容の格差を生まないようにすることが求められる。</p>	<p>「新・放課後子ども総合プラン」に基づく、令和6年度からの一体型運営と事業の民間委託化を検討します。そのなかで、保育時間の延長等、保育のあり方を検討し、保護者負担や内容の格差を生まないような制度設計を行っていきます。</p>
<p>市長のポリシーである「福祉のまち長久手」を基本指針として取り組んでいただきたい。</p>	<p>市の放課後児童健全育成事業は、「福祉のまち長久手」を基本指針として、「新・放課後子ども総合プラン」に基づき、実施していきます。</p>

課題に対する意見・提案等	担当課回答
<p>放課後に、一人留守番になる児童の居場所提供のための事業で、該当する保護者や児童にとってはその意義は大きい。加入希望者を全員受け入れることを目標に、加入受け入れ割合を指標とすることは妥当である。設置場所やスタッフの人員不足のため、受け入れ可能総数を増やせないのであれば、運用でカバーするしかない。検討中の児童クラブと学童保育所の一体化は、それぞれの位置づけが異なるため困難というのであれば、双方の特徴を組み合わせて運用するのが効果的かと考える。具体的には、個人ごとに児童クラブと学童保育所の通所曜日を分ける等、もう少し個々の事情に応じた通所許可を与える方策を検討してはどうかと考える。</p>	<p>「新・放課後子ども総合プラン」に基づく、令和6年度からの一体型運営と事業の民間委託化を検討します。事業の制度設計を行う中で、放課後児童クラブと放課後子ども教室の特徴を組み合わせ、個々の事情に応じた通所ができるように考慮していきます。</p>
<p>「住みたくなる街 長久手」が継続できるよう、諸課題に取り組んでほしい。預かり場所の不足に対しては小学校の空き教室の活用。働き手の不足に対しては大学生の活用等を視野にいれてはどうか。</p>	<p>「新・放課後子ども総合プラン」に基づく、令和6年度からの一体型運営と事業の民間委託化を検討します。その中で、学校内の施設利用についても教育委員会と各小学校と協議をしているところです。大学生の活用に関しては、定期的に大学を通して会計年度任用職員の募集をかけており、多数の雇用をしていますが、基本的には学業を優先とするため、長期休暇時における人材として活用しています。</p>
<p>需要と供給のバランス、人手不足など様々な問題が山積みされているが、市民が納得できる説明をしながら少しずつでも改善していく必要があるのでは。入所案件をもう少し分かりやすく具体的に設定すると良いかと。人手不足に関しては、募集する際に応募しやすいPRを工夫してみるとよい。(例：資格がなくても4日間の研修を受講すれば大丈夫など)</p>	<p>「新・放課後子ども総合プラン」に基づく、令和6年度からの一体型運営と事業の民間委託化を検討します。その際には、入所案件について、分かりやすく具体的な表現になるよう改善を検討します。人手不足の解消に関しては、放課後児童支援員を補助する者の募集の際に、他の事例を参考にしながらPRしていきます。</p>

事業名【担当課】

20 清掃事業【環境課】

全体に対する意見・提案等	担当課回答
<p>どうしても「燃えるごみ袋」増額ということだけをとらえられてしまいます。ごみを削減するというよりは、外部評価の際に話題になった、『SDGs』『カーボンニュートラル』の視点から、リサイクル率を高める視点での活動・周知も必要と思います。</p>	<p>仰るとおり、SDGs やカーボンニュートラルの視点も重要な視点だと考えます。ごみを減量しなければならない理由の1つの柱として、今後も機会を捉えて広報周知していきます。</p>
<p>『ごみの減量がなぜ必要なのか』ということ、改めて議論するなどして、市民への意識付けを行う前に、ごみ袋の値上げによる減量効果の部分が先走ってしまっているように感じます。確かに、ごみ袋値上げによる効果はあると思いますが、このような効果は一時的なものであると思いますし、やはり、真の意味で、ごみ減量を果たそうと思うと、『なぜ、今、減量が必要なのか』そして『今減量しないと、将来どんな弊害等が生じるのか』ということ、市民に訴え理解してもらってこそ、本当の意味での減量が成っていくと思います。よって、時間と労力がかかるとは思いますが、是非その点に関しての周知広報活動を強力に推進することも、急がば回れではありませんが、今必要ではないかと悪います。</p>	<p>ごみ減量に一番効果がある施策の1つとして、もえるごみ袋増額を提案していましたが、昨年実施した地域意見交換会で参加者からいただいた意見や要望を踏まえ、資源回収拠点の増設などの新たな施策や、ごみ減量の啓発の強化など市としてみなさんのためにできることを優先することとし、「長久手市ごみ減量・収集アクションプラン」を作成しました。アクションプランの17の取組の中で、啓発や意識向上のため、広報特集記事の随時掲載、ながくてごみ減量化通信の毎月回覧、環境教育や出前講座の実施など、今後出来る限りの広報周知に注力していきます。</p>

課題に対する意見・提案等	担当課回答
<p>カレンダー、ガイドブック、ホームページ、アプリ等、ごみの分別収集に関する情報発信に努めていること、またエコハウスの増設を行い、ごみの出しやすさに工夫を重ねていることを評価したい。情報が</p>	<p>ご提案の1はアクションプランの「出前講座の実施」の中で、2は「資源回収拠点の増設」の中で進めることができる内容と考えます。3は特に問題が起きているのは学生アパートですが、他の集合住宅で</p>

<p>広く行き渡るためには、継続的に発信し続けることが今後も大切であるだろう。たい肥等の取り扱いについても模索中であるとの回答を得ることができたため、有効活用することのできる道を検討し続けてほしい。さらなるごみ減量対策のための可能性として、学生アパートで一人暮らしをする大学生に向けたごみ分別や減量のための意識作りと負担軽減のために、以下の提案をしてみたい。1) ごみ減量講座を小中学校以外にも、高校や大学において実施する。2) 大学と連携し、リサイクルステーションを学内に設置する。3) 学生アパートの管理会社と連携し、共有スペースに資源ごみの回収ボックスの設置を呼びかける。瓶、缶、ペットボトルの他、雑紙置き場やシュレッダーの設置ができると良い。(ひとりひとりが少量のごみのために分別を適切に行ったり、異なる種類のごみ袋を買うのは負担であるかもしれず、もえるごみ袋の中に再生可能な資源などを安易に入れこむのではないかと思う。)</p>	<p>もごみの散乱やごみ出しマナーの問題は起きており、全体の問題と捉えて取り組みます。</p>
<p>成果指標である家庭系1日1人あたりのごみ排出量はH30年度以降、目標を達成できていない。また、コロナ禍でごみ排出量が増えている。ごみ袋の増額に向け昨年度は32回の意見交換会、27回のごみ減量出前講座が行われた。今後もこうした取り組みが必要とされるが、地球規模での環境問題から地域でのごみ減量の意味まで多面的なアプローチが必要である。また、ごみ減量のためにごみの分別が容易に分かるための工夫が必要であり、現在普及しているアプリのいっそうの普及、視覚的に見てすぐ分かるようなごみ袋への表示等が有効であると思われる。</p>	<p>ごみ出し支援アプリ「さんあ〜る」は令和5年1月末時点で約12,000ダウンロードとなっており市民にも好評いただいておりますが、今後も様々な方法で普及啓発していきます。ごみ袋への分かりやすい分別表示については、既に平成28年度に実施していますが、今後もっと見やすい表示ができないかなど模索していきます。</p>
<p>ごみの分別などに若い方が興味を持って取り組める様にごみ袋のプリントなど工夫をこらすのも良いのでは。生ごみの処理など家庭の意識を高めてもらうためのPRが必要。ごみは生活パターンによって量</p>	<p>若者をターゲットにしたキャッチーなものや、ごみの減量や分別意識を高めるためのデザインも今後必要になってくると考えますので、デザイン変更時にはそういったことも念頭に進めます。</p>

も違って来る為、ごみの減量の目的を分かりやすく伝えていく事が必要かと。	
-------------------------------------	--

事業名【担当課】

46 児童発達支援センター事業【子ども家庭課】

全体に対する意見・提案等	担当課回答
<p>障がいのある就学前児童とその保護者等にとってこの事業が発展していく意義は非常に大きいものとする。こぐまっこの設立により、これまで以上に利用者たちの選択肢が増えたことを評価したい。保育所等訪問支援についても、定期的に勉強会を開き、連携を取っていることが評価できる。就学を迎える子どもたちが出てくるなかでさらなる連携を取り、子どもたちへの支援と保護者負担の軽減を今後も検討し続けて欲しい。また今後、民間事業者との協力を高め、それぞれの特徴を生かし、児童の適切な割り振りや専門知識の交換、またセンター及び訪問先の保育所等における保育士の負担軽減にも努めてほしい。支援の必要な人たちに十分な情報が行き渡るように継続的な情報発信を続けてほしい。</p>	<p>保育所等訪問支援事業について、今年度までは、保育園・幼稚園への訪問でしたが、こぐまっこの通所している年長さんが、来年度小学生になります。その子達の通う小学校を訪問する予定ですので、こぐまっこと小学校との連携で、子ども達の支援、保護者負担の軽減が進んでいくと考えます。</p> <p>また、来年度以降は、民間事業者等へ研修・勉強会などを開催していくことを予定しており、センター機能を発揮し、継続的な情報発信を続けていきます。</p>
<p>本事業の目的が『独立自活に必要な知識技能の付与、集団生活への適応のための訓練』であることを考えると、施設利用後(学校入学後)に施設での教育・訓練が活かしているのか検証する必要があると思います。</p>	<p>通所されている子が保育園等の集団生活に入るにあたり、保育園や幼稚園の先生方と連携しています。また、保育所等訪問事業で、保育園・幼稚園等に訪問し、園での様子について、保護者、職員等と共有しています。</p> <p>来年度からは、保育所等訪問支援事業で小学校を訪問することになりますので、施設での教育・訓練が活かしているのか、確認できるようになると考えています。</p>
<p>当該事業は、発達に関して心配(不安)のある子ども達にとって、大切な事業だと思います。それだけに、本来であれば直営で執行していただけるとよかったですと思いますが、諸般の事情により、指定管理とな</p>	<p>こぐまっこのは、こどもの発達相談室と同一建物に隣接して配されており、毎月、定例に運営に関する会議を実施し、連携して事業を推進しています。</p>

<p>ったと思います。それだけに、開所して期間も短く、アウトプットできる成果指標もこれからと思いますが、今後とも、現在のように市の担当部署を同一敷地内に配し、意思疎通も十分に行い、市と指定管理者が、がっちりタッグを組んで、事業の推進を努めて頂きたい。</p> <p>また、指定管理者に負担をかけさせ過ぎないように、市もどんどん前面に出て、指定管理者と二人三脚で事業を進めていって頂きたい。なお、今後、この事業が広く知られ、通所者の増加も考えられます。どうか、このような施設を必要とする子ども達が通所できないようなことがないように、早め早めの対応も併せて検討していただきたいと思います。</p>	<p>また、こぐまっこの持つ子どもへの接し方などのノウハウを他の事業に提供するなど、連携を深めていきます。</p> <p>今後もこのような連携を維持し、利用ニーズに対応できるよう心がけていきます。</p>
--	--

課題に対する意見・提案等	担当課回答
<p>2021年10月に開所し、成果指標である利用者数は2021年度は目標値を大きく上回った。今年度の目標値も適切なものと思われる。児童発達支援センターでの児童発達支援と保育所等訪問支援の利用者数の目標達成を目指すだけでなく、市の中核的なセンターとしての役割を果たす「連携体制づくり」が重要であり、近隣自治体も含め民間の児童発達支援の事業所を把握すること、そこでの発達支援の内容、特徴などを理解し、発達支援を必要とする子どもの保護者が適切な支援にアクセスすることができるような相談体制が必要とされる。</p>	<p>児童発達支援センターは、開所して1年半が経ち関係各所、相談支援専門員と連携を取り、また、障がい者基幹相談支援センターと情報共有しています。更なる「連携体制づくり」については、今後、こどもの発達相談室とともに整えていきます。</p>
<p>指定管理をしていくからには事業者との連携や情報収集が急務ではないか。利用者が迷ったり困ったりしない様に、相談を受けた場合には的確にアドバイスして行ってほしいです。健診の時はもちろんの事、スーパーや公民館、図書館などでポスター、パンフレットでの呼びかけも幅広くやってほしいです。</p>	<p>児童発達支援事業所は、「こぐまっこ」だけでなく、市内外に様々な民間の事業所があります。</p> <p>スーパー、公共施設でのポスター等での呼びかけは行いませんが、こどもの発達相談室が、障がい者基幹相談支援センター、相談支援事業所の相談支援専門員と密に連絡を取りながら、適正なご案内が出来るよう努めていきます。</p>

事業名【担当課】

16 防災事業【安心安全課】

全体に対する意見・提案等	担当課回答
<p>防災のインフラの利活用、運用を効果的に行えるようご検討ください。</p>	<p>防災のインフラというと、情報インフラ、人のインフラ、設備のインフラなどが挙げられると思います。</p> <p>情報インフラについては、情報配信ツールである安心メールを令和5年度から新しいシステムに移行し、LINE や電話を追加するなど機能拡張する予定であり、効果的に防災情報が提供できるよう進めていきます。</p> <p>人のインフラについては、今年度を実施した市内一斉避難所開設訓練や、各地域の防災講習会への参加者数は、R5年1月末時点で延べ約1,700人と、多数の方に参加していただいています。自助、共助の取組が進むよう、今後も1人でも多くの方に参加していただけるよう進めていきます。</p> <p>設備のインフラについては、災害時に職員が使用する無線（携帯無線など）について老朽化が進んでいることから、今後、更新することを検討しています。音声だけでなく、写真や動画など相互通信できる機器に更新することで、災害時の情報伝達がより効果的になるよう進めていきます。</p>
<p>市役所の皆さんの行動だけではやはり限界があると思うので、様々な団体を巻き込んだ活動が必要であると考えられます。外部評価の際にも申し上げましたが、どうしても「やらされ感」は払拭できませんが、それでも経験をしておけば、有事の際には初動が違い人命を守る行動につながると思います。各種団体と協力・連携した訓練・講習会</p>	<p>今年度を実施した市内一斉避難所開設訓練や、各地域の防災講習会への参加者数は、R5年1月末時点で延べ約1,700人となるなど、多数の方に参加していただいております。今後も地道に訓練や講習会を続けていきます。また、来年度はより効果的な訓練等となるよう進めていきます。</p>

<p>を地道に続ける必要があると思います。</p>	
<p>香流川の洪水対策と景観の向上のため、県の管理であるようですが、県に具体的な要望をしたり、市として予算化したりし、前向きに取り組んでほしい。</p>	<p>大雨等で土砂が堆積した時など、随時愛知県に対し要望を出して対応をお願いしており、令和5年度も必要に応じ要望していきます。一部の市管理区間については、河積阻害のおそれのある草木の除去等を行っており、必要に応じて浚渫も検討していきます。(土木課)</p>

<p>課題に対する意見・提案等</p>	<p>担当課回答</p>
<p>安心メールは、非常に良いツールの一つだと思います。しかし、平常時においては、防災関係メールは発信量が少なく、市民に与えるインパクトも、あまり大きくないのが現状であると思います。よって、発信内容、発信表現等を工夫するなどして、平常時はもとより、いざ災害時には安心メールが頼りになるぞ、という市民の意識が高まるような内容にしていきたいと思います。</p> <p>加えて、非常時(発災時)には、円滑な通信状態が確保されなくては意味がなくなりますので、そのための対応について、平時からいろいろな調査研究や調整等々を行っていただきたいと思います。</p> <p>また、本市は、どちらかと言えば、災害に対して安心安全な街と感じられているところもあるようですが、いざという時は、想像をはるかに超える災害が発生する場合があること等について、他都市で起こった事例を紹介するなどして、危機意識醸成の広報啓発にも努めていただきたいと思います。</p>	<p>安心メールについては、配信する文面を工夫したり、阪神大震災や東日本大震災などの大災害が発生した日に配信したりするなど、少しでも市民の意識が高まるよう工夫していきます。</p> <p>令和5年度からは安心メールを新しいシステムに移行し、LINEや電話を追加する等の機能拡張を行うことから、災害時を含め、これまでよりも受信しやすい環境が整うこととなります。</p> <p>市民の危機意識の醸成については、講習会等において、他市町村の災害事例を紹介したり、本市の過去の災害状況を説明したりするなどにより、防災を自分事として捉えてもらえるよう、今後も工夫していきます。</p>
<p>安心メール登録者を10年後を目途に20,000人とする計画について、見直し・再検討をしてほしい。まず15,000人を目標とし、ちょうど15,000人目やその前後に登録した人に対し景品(クオカード、図書</p>	<p>令和5年度から安心メールを新しいシステムに移行し、LINEや電話を追加するなど機能拡張する予定です。このため移行後はメールだけでなく、LINEなども合わせた登録者数が増えるよう進めていく考えで</p>

<p>券等) を用意する等、安心メールに魅力付けをしてはどうかと提案します。</p>	<p>す。登録者数の目標については、移行後の登録者数を確認した上で、改めて検討していきます。</p> <p>なお、魅力付けの御提案については参考にさせていただきますが、現在のところそのような事業を行う予定はありません。</p>
<p>安心メールについては不審者についての続報を知らせてほしい。防災無線が聞こえない場所などには周知してもらう為に学校などに協力してもらって自助共助の意識を高める必要がある。公園や避難所などに看板など説明書き（ここは〇〇地区にお住まいの方の一時避難所です等）を加えると住民の意識が高まるのでは。</p>	<p>安心メールにおける不審者情報については、情報元である「パトネットあいち」を配信する警察に確認したところ、「検挙ができたり、行為者が判明した場合、続報を配信している」とのことでした。</p> <p>市としても安全であるとの状況が確認できれば、続報を配信することも検討しますが、市ではその状況確認は困難なため、警察からの続報がない以上、その提供は困難です。</p> <p>防災における学校との協力については、例えば市内一斉避難所開設訓練の際には市民だけでなく、学校教職員にも参加していただいているなど、今後も学校との協力を進めていきます。</p> <p>避難所看板の設置については、市指定の避難所への設置を進めていますが、新たに指定した避難所については未設置となっていることから、未設置の避難所については令和5年度に設置できるよう進めていきます。</p>

事業名【担当課】

30 地域福祉推進事業【福祉課】

全体に対する意見・提案等	担当課回答
<p>市民が地域社会へ参加する「きっかけ」について定義をお願いします。</p>	<p>ボランティア活動等を始めるときに背中を押してくれるようなことです。スマイルポイントがあることが、活動に対するやりがいや興味に繋がると考えます。</p>
<p>あくまでも「きっかけづくり」に対する事業であるので、そのことを明確にすべきと考えます。また、助成金・補助金を交付している団体が行う活動は、その団体の活動として「きっかけづくり」に取り組んでもらうべきと考えます。</p>	<p>現在も新規で登録される方が増加している一方で、活動が固定化している団体もあります。本事業が始まって7年目となり、ポイントの付与も含めて今後の事業の在り方を検討する必要があると考えています。</p> <p>また、助成金・補助金が交付されている団体等については、その助成金・補助金の対象となっている活動と判断するものについてはスマイルポイントの対象外としています。</p>
<p>市が思い描くあるべき姿と現状について広報紙等で広く市民に訴求することが必要ではないか。</p>	<p>本事業について、目的や内容を理解していただくことは必要と考えますので、広報やホームページなどの掲載内容について検討していきたいと考えます。</p>

課題に対する意見・提案等	担当課回答
<p>スマイルポイントの制度は、よい制度だと思いますが、ポイントをもたらうがための活動を行っている部分があることも、否定できないと思います。本来の趣旨をしつかりとらえて、ポイントの付与、不付与を行っていただきたいと思います。</p> <p>また、個人で、毎日子どもの登下校の見守りをしっかり行っている</p>	<p>本事業をきっかけに活動を始め、ポイントのために活動を続けている人がいることは事実ですが、一方でポイントの付与により、市民活動が活性化されている部分も大きいと考えます。</p> <p>ポイント対象事業の可否及びポイントの付与については、申請時及び報告時において今後も適性に審査していきます。</p>

<p>方、防犯等に関するいろいろな活動を行っている方、等々に対するポイント付与は対象となっていないなど、ポイントが付与されている方の活動以上に奉仕の活動をされている方も見えるので、こういった方々へのポイント付与についても、今後是非検討していく必要があるのではないかと思います。</p> <p>なお、市民が地域社会への参加をするため、やりがい等を見つけて5人以上の市民団体を作っていくきっかけ作りのためにポイント付与を行う、ということであるなら、その団体ができた以上、以後のスマイルポイント付与は、(活動内容、補助金の交付云々にかかわらず)行うべきではないとも思います。</p>	<p>個人でボランティア活動をしている方がたくさんいらっしゃることは承知しています。スマイルポイントは費用弁償の位置づけとしており、第三者が見て確認できる事前に申請された活動について責任者が報告する必要があります。</p> <p>将来的には、子どもの登下校の見守りや美化活動をはじめ、スマイルポイントが無くても個人ができる範囲でボランティア活動するまちになることを願い、現在は誰かのためになることが楽しい、嬉しいと感じていただけるよう、まずはボランティア活動に参加していただくことを目指しています。</p> <p>本事業の当初は市や福祉事業所に個人がボランティアで参加した場合を対象としていましたが、地域ではいろんな課題があり市民自らが仲間を集めて地域のために取り組んでいる活動についても対象として欲しいという声があり、基準を設けてポイント事業に追加することにした経緯があります。</p> <p>市民の地域社会への参加のきっかけづくりが目的であり、市民団体を作るまでが目的ではありませんのでご理解ください。</p>
<p>個人でボランティアを頑張ってくれている方にもスマイルポイントをあげてほしいです。団体のスマイルポイントの扱いは定義を定めて補助金などの二重取りを無くすべき。きっかけ作りのポイント付与ならばその定義をはっきりさせるべき。</p>	<p>前項までの回答に記載。</p>

事業名【担当課】

9 リリモテラス事業【たつせがある課】

全体に対する意見・提案等	担当課回答
<p>リリモテラス公益施設は、デザイン性のあるゆったりとした空間と新しい感覚を持つユニークな施設で、4つのテーマを掲げたイベントの定期的な開催や、長久手中央2号公園のリニューアルオープンも伴って、子育て世代を中心に人々がくつろいだり、子どもたちが楽しんだりする場を提供してきたという意味において、その功績を評価することができる。</p>	<p>リリモテラス公益施設は「新たなつながりをデザインする場」をコンセプトに、誰もがゆったりと過ごせる空間を創出しました。施設においては、今後も夏祭りやお正月など季節ごとのイベントに加えて、市民団体や学生と連携して、親子工作教室や演奏会など日常的に楽しめる企画を実施していきます。</p>
<p>リリモテラスの有効活用には、リリモテラス運営協議会、指定管理者、市の連携が重要である。リリモテラス運営協議会はそれぞれ目的が異なる4団体の代表者会議であり、指定管理者は市から委託を受けてイベントの企画・運営を主導する立場である。そのため、調整役である市が両者をうまく先導して管理を進めていただきたい。</p>	<p>リリモテラス公益施設の管理運営は、リリモテラス運営協議会、活動コーディネーター、指定管理者、市の4者の連携により行っています。市の役割としては、運営協議会と指定管理者相互に係る調整役としての役割を担っています。</p>
<p>第5次長久手市総合計画の主要プロジェクトであるリリモテラス構想が実現した経過もあり、投資効果を考え、指定管理者と力強く推進してほしい。</p>	<p>リリモテラス構想の具現化された場所として、その理念を念頭に指定管理者、運営協議会と連携して運営管理を行っていきます。</p>

課題に対する意見・提案等	担当課回答
<p>開設から1年であり、コロナ禍においての試みであったこともあり、集客等においては限定的にならざるを得なかった側面は理解できるが、今後より発展し、市民や市を訪れる人たちが積極的に利用するためにはいくつかの工夫を重ねてみることも必要であるだろう。ひとつには、訪れるきっかけをより提供するために、古戦場駅や中央2号公園、イオン施設内に案内を増やし、人々を誘導するような対策を立てると良いだろう。公益施設のデザイン性を活かし、遊び心のある案内ができると思う。公益施設内のカフェは素敵だが、気づかれにくく、とりわけ商業施設内に多くの飲食店がある中では利用されにくいように思う。隠れ家的な良さがあるのは確かだが、もう少し工夫した案内を表に出すと、人々を惹きつけやすくなるのではないかと思う。4つのテーマをもう少し明確に表に出し、イベントのない折にもふと訪れた人に何らかの知的好奇心を提供する機会が増えるのも良いだろう。子どもたちが水黒板やスタンプ、季節ごとの飾りつけを楽しむことができるように、学生や大人が目にしたたり、手に取ったり、読んだり、考えたりするものがより増えると良い。また、4つのテーマのイベントが個別に展開されるのではなく、できる限りリンクさせていくこと、長久手という町の特徴を生かしていくことで、より魅力的な場を提供することができると思う。</p>	<p>リコモテラス公益施設の認知度を向上させるため、施設を紹介する案内チラシを作成して新聞折込みを行ったり、リコモ長久手古戦場駅に案内サインを設置しました。令和5年2月には4週間にわたりリコモの車内広告（3両1編成）を掲示して施設の周知を行っています。</p> <p>施設の入口付近には、プログラム案内看板やカフェの看板を設置したり、冬期にはイルミネーションを飾るなど入りやすい雰囲気演出しています。館内の展示についても、ハロウィンやクリスマスなど季節ごとの飾り付けの他、学生の写真展やながくてアートフェスティバルとコラボした芸術作品の展示などを行い、訪れる人を楽しませる仕掛けを施しています。</p> <p>4つのテーマの連携方法としては、毎月定例で行っている「tori8 前ミーティング」において4つのテーマに関わる個人・団体が集まって企画アイデアを持ち寄り、活動コーディネーターの仕切りで話し合いながら企画を実現させています。実現した企画としては、学生と子育て支援団体が連携した「焚き火カフェ&哲学座談会」を実施しています。</p>
<p>委員からのコメントにあったが、リコモテラスが何をやる施設なのか市民に分かりにくく、利用の敷居が高いように思う。また、商業施設や中央公園に隣接するものの、リコモ駅や駐車場からの人の動線から離れているため、人を誘導するような案内板などの工夫が一層望まれる。車で商業施設に来る人からも道路側から何の施設か分かりやす</p>	<p>外から見て、どのような施設で何が行われている施設なのかわかるように入口付近には、施設で行われているプログラムの案内看板やカフェの看板を設置したり、冬期にはイルミネーションを飾るなど入りやすい雰囲気演出しています。</p>

<p>い表示や親しみのある愛称も有効であろう。</p> <p>成果指標である事業運営に関わる市民の数は延べ人数であり、同じ人が何回も運営に参加している場合、その実態の人数を表していない恐れがある。今後、新たに運営に参加する人を集計して、運営参加の広がりを調べるとよいと考える。</p>	<p>成果指標として設定している事業運営に関わる市民の数の把握については、事業ごとの運営人数の把握に加えて、事業を展開する中で新たに運営に関わり始めた人も把握できるようにします。</p>
<p>中央二号公園にて、小牧・長久手の戦いの紹介と合わせ、棒の手保存会の演技会を実施することを提案します。</p>	<p>令和4年11月に「ながくて楓まつり」を長久手中央2号公園、リニモテラス公益施設、長久手古戦場公園を会場として開催しました。この祭りの企画として火縄銃の発砲を古戦場公園で実施しました。発砲に先立ち長久手中央2号公園では鉄砲隊が隊列を組んで練り歩き、祭りの雰囲気盛り上げることができました。今後も小牧・長久手の戦いの舞台地としての長久手をPRする企画を古戦場公園と連携して実施していきます。</p>
<p>部屋の利用をもう少し柔軟に開放してほしいです。市民以外の訪れも想定し、観光案内などの強化も視野に入れてPRを強化した方がよい。デザイン的な建物なので芸大とのコラボなどポスターや展示物などに力を入れるとよいかと。</p>	<p>市内外に向けて施設のPRに取り組むとともに、県芸大の学生の制作した掲示板（吹き出しの形のメッセージボード）を活用して活用アイデアを募り、市民の発想を活かしながら柔軟に利用できるようにしていきます。</p>

事業名【担当課】

52 緑化振興事業【みどりの推進課】

全体に対する意見・提案等	担当課回答
<p>・里山は長久手市の良さの一つであり、里山保全は里山を維持するために重要と考える。成果指標であるイベント参加者数は「里山の保全と活用を図る」という事業意図を直接測る指標ではなく、里山に興味のある人の数である。イベント参加と里山保全の間には、かなりギャップがあるように思う。</p>	<p>里山保全を担う人材を発掘するために、まずは里山イベントで里山に興味のある人を集め、体験を通して保全活動団体の紹介及び里山への関心を高める事を目的としています。実際に、イベントで長久手市内で里山保全が行われていることを知り、保全活動へ参加された方もいらっしゃいます。</p>
<p>近隣の学生ボランティアとさらに連携して行ってほしい。 行ってみたい里山をさらに具現化するためスピード感をもった事業展開を求めます。長久手市の魅力は都市と田舎が混在するところであり、南部の里山クラブに続く北部の里山開発に注力すべき時期がきたと思います。市民団体、地元住民、市役所の三者で交流を密にし、目的達成に挑戦していただきたい。</p>	<p>令和4年度では愛知学院大学の学生サークルと「森の音楽会」を開催しました。里山散策路内にある森の広場にて学生サークルによる楽器の演奏が行われ大変好評でした。引き続き、三者で行う里山事業について内容を検討していくと共に、交流を密にしながら進めていきます。</p>
<p>里山の保全は、ぜひ長久手市として力を入れていただきたいです。里山と都会のどちらとも身近にある都市としてこの魅力ある長久手市をもっとアピールしてほしいです。蛭プロジェクトはとても素敵だと思います。</p>	<p>引き続き、長久手市のもつ里山の魅力を発信していきます。</p>

課題に対する意見・提案等	担当課回答
<p>里山の保全・活用について、長久手市の魅力を伝えるための重要な事業と位置づけることができる。幅広い年齢層に魅力を伝え、将来的な人材育成を行うために、大学との連携を積極的に行うことに同意す</p>	<p>令和4年度では大学生と連携してイベントを実施した後、学生から里山の保全活動を手伝うとの申し出がありました。今後もイベントの実施だけではなく、その後の里山保全活動についても学生へ周知して</p>

<p>る。ボランティアとしての参加を個人やボランティアサークルに呼びかけるのと同時に、インターンシップの機会を設けてキャリアサポートセンターに呼びかけることも一案であるように思う。学外インターンシップを単位として認める大学もあり、就業経験として市の事業に携わることは、学生たちが自分自身のキャリアを考えていく上でも就職活動時の「売り」となる意味でも良く、里山の保全・活用に関する若い世代のアイデアや活動力を得て、継続的な関わりを期待していくことのできる、win-win の関係を築くことができるのではないかとと思う。また、一時的な滞在であるかもしれないが、留学生に呼びかけることも一案であるだろう。日本の里山は留学生にとっても魅力的であり、ボランティアやインターンシップは日本の学生以上に積極的であるだろう。活動を通じた地域の人たちとの関わりも留学生にとっては魅力的であり、多文化交流の場となることで、日本の学生の関心もより積極的なものにするところができるのではないだろうか。子どもたちや幅広い世代にとっても同様である。さらに、散策道の整備や道案内の看板やマップの制作を含めて、里山を活用する計画も積極的に進めてほしい。コロナ禍で遊び場が限定される中においてはとりわけ里山は良い遊び場を提供しうる。健康志向、SDGs への関心、ジブリが繰り広げる世界観にも重なり、長久手市が抱える若い世代の人たちにとっても魅力的であるように思う。入口の機会がこれまで以上に増えることを望む。</p>	<p>いきます。保全活動は不定期開催かつ短時間のため、現状ではインターンシップの受入れは検討していませんが、学生と活動団体が良い関係を築くことができるよう学生や団体の意見を聞きながら進めていきます。</p> <p>散策道については現在、活動団体により東山地区の一部が整備されており、散策路を散歩するイベントを毎年実施しています。今後さらに里山が整備された際にはマップを製作できないか活動団体と検討いたします。幅広い年齢の方に御参加いただき、里山保全活動の入口に触れるきっかけとなるような事業を実施していきます。</p>
<p>里山に興味のある人を増やすには、里山プランで既に成功している蛍観察イベントを他の地区に展開するのも一方策であろう。ただ、イベントは里山の良さを体感するきっかけにはなるが人数が限られており、すそ野を広げるためには里山がどこにあるのかやどんなところかを、広く市民に理解してもらう方が有効と考える。そのためには、お</p>	<p>ご意見のとおり、里山に興味のある人を増やすためにも市民が里山に触れる機会の創出が必要であると考えますので、引き続き里山イベント等の実施を行います。また、散策路については、現在東山地区の一部を活動団体が整備しています。今後さらに整備された際にはマップを製作できないか活動団体と検討いたします。</p>

<p>勧め里山探索ルートの設定や案内看板の設置などが必要となるが、市民が里山に触れる機会が増えることで、結果として里山保全の必要性が理解されると思う。すそ野が広がることで、新たな市民活動団体も見つかる可能性も増えると思う。</p> <p>また、平成こども塾での米づくり体験イベント等の参加者には里山に興味がある人が多いと思われるので、積極的に連携すべきと考える。タケノコ掘り体験は、竹林所有者と市民の双方にメリットがあり、竹林の保全もかねて企画を検討いただきたい。</p>	
<p>里山散策ルートを作って若い世代層も自然と里山に興味を持てるよう、整備して行ってほしい。</p>	<p>東山地区の一部で里山の散策路を散歩するイベントを年に1回実施しています。引き続き幅広い年齢層に御参加頂けるよう事業を推進していきます。</p>